

---

# 梅雨

篠義

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

梅雨

### 【Nコード】

N0075Q

### 【作者名】

篠義

### 【あらすじ】

軽〜くエロ

関西夫夫

関西弁で、字書きはできるのか？ で、はじまった、このお話。

意味がわからない言葉があれば、連絡ください。ははははは。

最近の日本の梅雨は、熱帯のスコールのようだ。ざっと降って、さっと上がる。その間さえ雨宿りできれば、避けられるものなのだが、生憎と、うちの帰り道に雨宿りできる場所がない。

引き戻せば、コンビニがあるのだが、面倒だと、そのまま濡れて帰った。寒い季節ではないから、スコールのような激しい雨は気持ちよい。空が怒っている様な激しい雨に、服もどんと濡れていく。髪の毛から滴る雨が口元に流れてくる。シャワーを被っているような勢いだ。

川の土手に白いガクアジサイが咲いていて、しばらく、それを眺めていた。激しい雨に翻弄されて倒れそうなのに、しなやかに枝を揺らしているだけで倒れたりしない。ひたひたと花を叩く雨粒も、流されるままに流れていく。

そんなことをしていたら、途中で雨は上がった。どんよりとした曇り空だが、さっきより雲の高さはある。やれやれ、と、スコールを堪能して歩き出した。

「花月、バスタオルくれえー」

玄関で叫んだら、「どあほーー」という怒鳴り声と共に、花月が現れる。頭のとっぺんから足先まで、ずっくり濡れた俺を見て、もう一度、「このあほがっつ。」と、怒鳴りつつタオルを渡してくれた。

「気持ち良かったわ。あそこのガクアジサイきれーやな？」

「・・・せやな・・・それより、おまえのほづがきれーやで？」

「三十越えたおっさんに言う台詞やないと思うけどな、それ。」

「ずぶぬれのおまえって、なんかエロいもんがあるんやて。」

まあ、とりあえず、貴重品を抜いておこうか、と、花月が、俺のスーツの内ポケットかせ財布とか定期とか文庫本とかを引き抜いた。多少、湿っているが、そこまでの被害にはなっていないかった。それらを、廊下に放り出すと、ニヤニヤと花月は笑って、俺を担いで風呂場へ連行した。

些か壊れている俺の嫁は、梅雨から夏にかけては雨は濡れるものだと思っている。避ければいいだろうに、そのまんま濡れて帰ってくるのだ。

スーツもネクタイもずつくりと濡れて、雫が滴っている。髪の毛からもぼたぼたと雫が零れた姿というのが、なんだか、ひどくエロいと思う。

雨で下がった体温を上げるために頬が上気しているし、髪から流れてくる雫で唇が濡れている。それを無意識に舐めあげている舌が、なんだか、ひどく気分を盛り上げるのだ。

壊れていない普通の人は、そうなる前に、どうにか濡れないように努力する。例えば、家まで走るとか、どこかへ雨宿りするとか、そういうことで濡れないようにするだろう。だが、俺の嫁は、まるで濡れることが楽しいのか、と、思うぐらいに盛大にやっつけてくれる。ひんやりと冷えたスーツごしに感じる身体を、風邪をひかさないために、シャワーで温める。だが、脱がせる前にかける。それから、そのシャワーの下で、じつくりと脱がせるのだ。濡れた衣服ほど脱がせにくいものはない。それをじつくりと脱がせてつつ、ぼんやりしている俺の嫁の唇も温める。肌を滴るお湯を舐めるようにしていると、別の意味で頬が上気していく。

「・・・もう、いやや・・・熱い・・・」

「まだ脱がせてないから、無理。」

ネクタイを外し、ワイシャツのボタンを全部外す頃には、すっかり、俺の嫁も出来上がっている。梅雨の日の我が家だけの楽しみ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0075q/>

---

梅雨

2011年1月11日21時11分発行